

タイトル	持続可能な地域づくりのために 主体的に考え行動していける生徒の育成
学校名	山ノ内町立山ノ内中学校
H P	http://www.town.yamanouchi.nagano.jp/kyoiku/yamachu.html

スキー場・温泉という資源に恵まれて発展してきた山ノ内町も、1998年長野冬季オリンピックをピークに観光業が伸び悩み、更にユネスコエコパーク内に位置する本校も1980年代 7クラス・700人規模であった生徒数は、現在 280人程度に減少し、少子高齢化が進んでいる現状があります。この現状を受け入れた持続可能な町づくりの鍵として、町に誇りと愛着を持ち、未来の担い手となる人材育成が求められています。そのため本校では、ユネスコスクール加盟申請にあわせて、教育課程を見直し、ESDを活用した特色ある学校づくりと、自分と町の未来を構想していくことのできる生徒を育てる取り組みをはじめました。



ねらい (GOAL)

持続可能な開発のための教育(ESD)を推進するために、3年間の系統的な学習を仕組み、各学年の活動目標を立てた。

- 1年次は我が町の良さや価値を探し、友との共有活動を通じて、情報を集め取捨選択し課題を見出す力の育成を目指しています。
- 2年次は、草津町の魅力に学び、我が町の良さや価値を再発見する活動を通じて、他と比較し、課題解決の方法を考える力の育成を目指しています。
- 3年次は、1年次からの学習と修学旅行(京都の魅力調査や観光大使活動)で学んだ事をもとに、町関係者を招いて中学生が夢みる町づくり討論会を行い、情報をまとめ、発信し、行動する力の育成を目指しています。



活動内容 (ACTIVITY)

平成29年度に総合的な学習の時間にESDとして行った主な活動は以下の通りです。

- 4月 ○京都の魅力調査・山ノ内町観光大使活動(3学年) ○ABMORI(生徒会)
- 草津町研修旅行(2学年) 9月 ○ESD講演会(全校生徒)
- 志賀高原トレッキング(1学年) ○文化祭でのESD発表
- 7月 ○中学生が夢みる町づくり討論会(3学年) 10月 ○地域自慢の旅(1学年)
- ユネスコスクール交流(3学年) ○夢みる町づくり実現プロジェクト(3学年)

変容 (TRANSFORMATION)

3年間のESDによる学習を通して、わが町に対する見方考え方が下記のように変わってきた。

【自らよく考え、判断する力】

ESDの学習を進める上で、本校が大事にした事は、生徒本人の興味関心を基に、わくわくどきどきする学習が展開できるように、生徒の興味関心に基づいて、クラスの枠を外した学年内でグループをつくり、グループ学習を中心に活動を進めさせた点にあります。この事により、「町に誇りを持つ」という点について、1年次には「自分たちにとって興味関心がある特別な事・目立つ事」に価値があると考え、我が町の自慢ととらえていた生徒たちが、2年次では、「当たり前のように身近にある」ありふれた自然の恵みや風景に魅力をとらえ直してくるなど、「我が町の現状」に対して、プラスのとらえ方をする生徒が増えてきました。